

A4 見本

約 47mm

「交通工学」論文の投稿原稿の書き方及び書式見本について  
Detailed Note on the Preparation of Papers for “Traffic Engineering”

タイトル 約 14 ポイント

著者 約 13 ポイント

交 通 太 郎\*  
環 境 花 子\*\*

概要 約 8.5 ポイント

雑誌「交通工学」の論文への投稿原稿は、この書式見本に示す体裁で提出されたものしか認めません。全文手書きによる投稿は受け付けません。投稿原稿は A4 用紙への出力とし、そのほぼ中央の横幅 150mm、縦高さ 203mm の紙面上に、一行 22 文字×41 行×2 段組で印字するものとします。A4 用紙にこの紙面を中央に位置するには、左右マージンが 30mm づつ、上下マージンが 47mm づつとなります。本文は明朝体 (英文は Times New Roman) 約 9pt とします。一ページ目には、論文の表題、著者名、概要、及び脚注として著者の所属などと連絡先を記して下さい。表題と著者名を上から 9 行目までにおさめ、この下に概要 (英文、和文とも概要は和文) を中央寄せ、約 8.5pt、横一行 40 文字で書いて下さい。概要の文字数は 350~400 字とします。従って概要は全部で 9~10 行となります。この下に内容を十分に表すキーワード 3~5 語を書いて下さい。投稿原稿のページ数の上限は 10 ページとします。これを越えたものは受け付けません。

約 30mm

約 30mm

キーワード 交通需要分析 パネル分析 交通シミュレーション

約 6mm

1. はじめに

本文 約 9 ポイント

論文では本文の書き出しは、21 行目からとします。なおレイアウトが困難なワープロなどを使用の場合には、適当なサイズの縮小 (拡大) コピーを貼り付けて所定の体裁としたもので構いません。一ページ目の初めの 9 行に表題と著者名、次の 11 行に論文の概要とキーワードが示されており、最下行に著者の会員種別、TOP/TOE 資格、所属などと連絡先 (電話番号など) が示されていれば、一ページ目のこうした本文以外の部分の体裁については、そのレイアウトは多少簡略化してもかまいません (注 1)。

2. 書き方の原則

2.1 文章および章・節・項

文章は口語体により、和文では特に英文もしくは片仮名書きを必要とする部分以外は漢字まじり平仮名書きとして下さい。私的な表現、広告、宣伝に類する内容の記事は避けて下さい。

章、節、項の見出しの数字は、次のように統一します。フォントはゴシック体 (英文は Arial) としますが、出力の制約で不可能な場合は明朝体でも構いません。これ以外の小項目はなるべく避けて下さい。

- 1., 2., 3. ……章
- 1.1, 1.2, 1.3 ……節
- 1), 2), 3) ……項

章見出しの前後には一行空行を取って下さい。また節見出し、項見出しについては、間に空行を

\* 正会員 TOE 交通大学工学部土木工学科教授 (TEL: 000-000-0000)

\*\* 学生会員 TOP 環境大学大学院交通工学専攻 (TEL: 03-0000-0000, FAX: 03-0000-0000, e-mail: xx@jste.or.jp)

約 47mm

表-1 サグにおける視距と縦断曲線半径の設計規準

設計速度 [km/h]	視距[m]	縦断曲線半径[m]
120	210	4,000
100	160	3,000
80	110	2,000

取らないで下さい。

なお、各ページの下側、欄外、中央にページ番号を付けるようにして下さい。

### 2.2 式および記号

式や図に使われる文字、記号、単位記号などは出来るだけ常識的な記号を使い、必要に応じて記号の一覧表を付録として本文の最後につけて下さい。数式はできるだけ簡単な形でまとめて、式の展開や誘導の部分を少なくして文章で補って下さい。式を書く場合には、記号が最初に現れる箇所に記号の定義を文章で表現して使って下さい。また、同一記号を2つ以上の意味で使うことは避けて下さい。

式には(1)、(2)、(3)のように丸かっこ付きの式番号を、右寄せでつけて下さい。また、原稿では本文と式の間、上下1/2改行分程度のスペースを入れて下さい。以下に例を示します。

$$Q = K \times V \dots\dots\dots (1)$$

式(1)において、 $Q$ は交通量[台/時]、 $K$ は密度[台/km]、 $V$ は速度[km/時]を示す。

$$A = \sum_{k=0}^n \sum_{i=1}^m \frac{2}{\sqrt{\pi}} a_i^k \int_{-\infty}^{\infty} f(x) dx \dots\dots\dots (2)$$

数式の記号の書体はイタリック体とします。本文で記号を引用するときには同じ書体として下さい。ご使用のワープロソフトで数式や記号の書体や体裁を整えることが困難な場合には、必要なスペースを空けておいて別途数式を貼り付け、または別記して挿入位置を示してもかまいません(数式や記号は手書きも可)。この場合、上ツキ、下ツキ、ギリシャ文字、特殊記号などの指示や、紛らわしい文字の注記を必ず朱書きで添えて下さい。

### 2.3 単位系

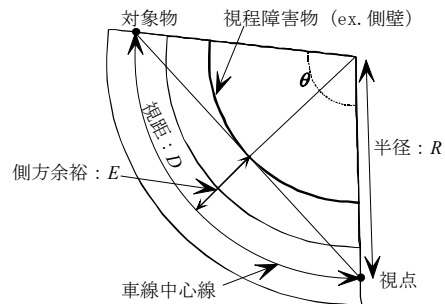


図-1 視距の確保の考え方<sup>3)</sup>



写真-1 視界が前方車に遮られる例

単位は原則としてSI単位を用いて下さい。単位の、従来単位系を用いる場合は、かっこ書きでSI単位系を併記して下さい。

例：単位体積重量 1 kgf/cm<sup>3</sup> (9.8 N/cm<sup>3</sup>)

### 2.4 図、表、写真

- 1) 図、写真の表題はその下に、表の表題は表の上につけ、それぞれ通し番号を付けて下さい。
- 2) 図、表、写真の横には本文は組み込みません。
- 3) 投稿原稿には、図表の判読性も考慮して大きさやレイアウトを考えて下さい。また図表内の文字の大きさは6pt以上とします。記号類は小さすぎないように少し大きめに表示して下さい。線の太さについても注意して下さい。
- 4) 図、表、写真を他の著作物から引用する場合は、出典を必ず明記し、かつ必要に応じて原著者の了承を得て下さい。
- 5) 図、表、写真は原本となる電子ファイル(解像度300dpiを目安)を提出して下さい。紙媒体の場合は、各一枚につきA4用紙一枚に貼り付けまたはトレーシングして提出して下さい。その際、原稿中の挿入する部分には必要なスペースを空け、同じ表題を両方につけて下さい。なおカラー印刷

は受け付けられませんので、図、表、写真は白黒印刷でも判読できるものになるように留意して下さい。

## 2.5 参考文献

参考にした文献は引用順に番号を付けて本文末にまとめて記載し、文中にはこの例のように<sup>1)</sup>、その番号を右肩上に示して文末の文献と対応させて下さい。

参考文献は、著者名、論文名、雑誌名(書名)、巻号、ページ、発行年の順とします。英文の雑誌の場合は姓、イニシャルとします。単行本の場合は、著者名、書名、ページ、発行所、発行年の順とします。英文の雑誌の場合の論文名、及び英文の単行本の書名は各単語とも頭文字は大文字として下さい。また著者数が多過ぎる場合には、第二著者以降を"ほか"、"et. al."として省略しても構いません。その他書き方の詳細については、この書式見本を参考にして下さい。

## 3. 問い合わせ先

投稿原稿に関する問い合わせは下記の係りまでご照会下さい。

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-23  
錦町MKビル5F  
社団法人 交通工学研究会  
交通工学編集委員会 係  
TEL : 03-6410-8717 (代)  
050-5507-7153  
FAX : 03-6410-8717

(注1)「論文」以外の、「討議・報告・紹介」への投稿は本書式見本に準じて下さい。また「報告・紹介」で編集委員会からの依頼原稿の場合には、特別に手書き等の原稿でも受け付ける場合があります。

(注2) こうした注記、及び謝辞や付録がある場合は本文の後、参考文献の前とします。

## 参 考 文 献

- 1) 羽藤英二, 谷口正明, 杉恵頼寧; "経路選択時の交通情報に対するドライバーの反応", 交通工学, Vol.30, No.1, pp.23

~32, 1995

- 2) 森健二, 斉藤威; "交通制御による NOx・CO 低減量推定用シミュレーションモデルの開発", 交通工学, Vol.31, 1996(掲載決定)
- 3) 大口敬ほか; "道路線形と見通し視距の関係に関する考察", 土木計画学研究講演集, No.19, 1996(投稿中)
- 4) 田口玄一; "実験計画法", 丸善, 1976
- 5) 越正毅編著; "交通工学通論", pp.64~65, 技術書院, 1989
- 6) 交通工学研究会; "交通管制 2 次システムの基本プログラムに関する研究", 1973
- 7) (社)日本道路協会; "道路構造令の解説と運用", pp.252-264, 1983
- 8) Leiser, D. and Stern, E.; "Determinants of Subjective Time Estimates in Simulated Urban Driving", Transpn. Res. A, Vol.22A, No.3, pp.175~182, 1988
- 9) Ozaki, H.; "Reaction and Anticipation in the Car-Following Behavior", Proc. of 12th ISTTT, pp.349~366, 1993
- 10) Oguchi, T., et. al.; "Analysis of Fuel Consumption Structure in Real Traffic Situations", Proc. of 8th International Pacific Conference on Automotive Engineering, Vol.1, pp.305~310, 1995
- 11) May, A. D.; "Traffic Flow Fundamentals", pp.247~282, Prentice-Hall, 1990
- 12) Transportation Research Board; "Highway Capacity Manual", Special Report 204, 1985
- 13) Oguchi, T. et. al.; "Available Concepts of Energy Reduction Measures against Road Vehicular Traffic", Proc. of 3rd World Congress on Intelligent Transport Systems, 1996 (in Printing)